

++++++++
「植物と人々の博物館メールマガジン」 第 52 号 2019 年 2 月 4 日発行
++++++++

世界とともに日本も現代史が大きく動く年になるのでしょうか。遊行の徒は敦煌の趙行徳になったつもりで、IT デジタルや生命科学の過剰な便利に抗って、もっぱらアナログの書籍や資料の整理を楽しんでいます。事実を明かす現物証拠標本を残したいです。

日本村塾ゼミで、読書会をして、本を読み、先人たちの経験を一緒に学んでくださいませんか。自然のなかでの暮らしや生業について皆様と一緒にもっと学び、山村に暮らす楽しみ、人々の幸せや誇りについて語り合いたいです。都市民はもっと自然に親しまないと、人間 H. サピエンスでないもの AI や得体のしれない生命体の下僕になってしまいます。科学が事実を拠らない H. デウスの神話を作るのはお断りです。

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は会誌「ナマステ」季刊でお知らせしています。友の会会員になっていただければうれしいです。また、顔見知り信頼のクチコミで友人・知人に広く転送伝達していただけるとありがたいです。

○報告

1. 東京農業大学のボランティアの方が見学に立ち寄ってくださいました。ライフラインのない植物と人々の博物館は野外よりも寒いです。
2. 『環境学習原論—人世の核心』（木俣美樹男 2019）は、印刷予定がありませんので、下記のサイトで公開します。自然文化誌研究会の皆さんと実践しながら、40 余年考え続けたことをまとめました。書き終えるにあたって、明確になった結びは意外にも世間の認識とはかなり異なって、環境学習とは美とファンタジー（想像力）の探求という営為でした。ご感想を頂ければうれしいです。

www.milletimplic.net/ethnobotany/pelfinal.pdf

3. **さく葉標本の整理** 東京学芸大学所蔵の標本を首都大学東京牧野標本館に移管する（予定）にあたって、実習でラベルをデータベース化（エクセル pdf.）したもの、および東京腊葉会標本リスト（pdf.）をコレクション（下記個人 HP）で公開しました。海外学術調査で収集した標本の整理も進めていますが、熱帯植物の同定は困難なので、データベース化は先送りです。

○予定

1. **植物と人々の博物館開館・作業予定日**：2019 年 2 月 8 日（金）、22 日（金）、3 月 1 日（金）の予定です。植物と人々の博物館／森とむらの図書室では、順次、図書・植物標本・資料や民具の展示解説をしています。ご利用くださるとともに、作業にご協力いただきたく、よろしくお願ひします。ご利用や協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、上記以外でも日程調整します。場所は小菅村井狩集落バス停近く、細川邸の前、道の駅臨時駐車場の坂を下ってすぐです。

学大探検部収集の民具類も整理・収蔵・展示しています。しばらくはインド亜大陸収集の標本整理をします。森とむらの図書室（小菅・藤野）では日本の食文化・民俗関係を整理しています。順次資料のリストはホームページで公開しますので、ご利用ください。

2. **自然文化誌研究会総会**： 2月16日、藤野で開催されます。

3. **NPO 環境文明 21 の憲法部会**： 2月14日、大崎で開催です。

4. **食農教育座談会 3**： 今回の開催は福田先生の学校を訪問する予定です。人間の文明史など読書会も良いかなと思います。日本村塾の自給農耕ゼミ、民族植物学ゼミ、扶桑こくゼミは、希望者があれば日時・場所・話題などを調整して、読書会を開催します。都市農業や家族農業の図書文献は森とむらの図書室（小菅および藤野分室）で閲覧できます。関連の講演資料や研究報告はホームページで読めます。

5. 雑穀街道と FAO 世界農業遺産

FAO 世界農業遺産関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道普及会』の賛同者を募っています。2年後にはぜひ申請できるように、賛同が広がるようにどうぞご援助くださいますようお願いいたします。FAO 世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように、一層のご助力をお願いいたします。下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。世界農業遺産などに関する紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」で閲覧していただけます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』序章で雑穀の栽培史、補論 1 用語法、第 3 章関東地方・第 6 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）、補論 2 主食の起源をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletworld/jnmpmilvil.html>

7. **民族植物学第 12 号**は編集中で、2019 年 2 月頃発行予定です。次の第 13 号からは電子出版のみにする予定ですが、いつでもご寄稿を歓迎します。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）で読めます。メールマガジンもすべて記録してあります。会誌ナマステは自然文化誌研究会のホームページで読めます。

8. 『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は民族・信仰について学びながら、南アジアについて、個人の現地調査の体験をまじえ、自由に書いています。現在は第 9 章スリランカとバングラデシュの雑穀を研究会に参加し、文献を読んで、学んでいます。今年はインド亜大陸の著述に時間を使います。補論として、植物と信仰について論考を深めたいです。『日本雑穀のむら』は第 5 章中部地方の雑穀文化複合、補論 3 副食主菜の起源を検討しています。『第四紀植物』および“Essence of Ethobotany”はまだ非公開ですが、書き進めています。これらは、下記の雑穀・民族植物学関係個人ホームページで読めます。引用してくださる場合は、順次必要に応じて改訂していきますので、「木俣（2019）」としてくださるようお願いいたします。

~~~~~

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小

川泰彦（埼玉）

ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

雑穀・民族植物学関係の個人 HP：生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>

~~~~~

写真

エンドウが成長しすぎて、その結果寒さにいじけていました。元気なキャベツも、寒さと乾燥に耐えて、春まで持ち越してほしいものと、こう書いてから、新年 11 日に畑に行ったら、カブは凍結乾燥してパラパラになっていました。スナップエンドウもかなり危機的に乾いていました。自宅の庭は南向きで塀に囲われているので、まだ暖かく、同じ品種のスナップエンドウは草丈 20 cm 余りなのに花が咲いています。その後はまた晴れる日が多く続きます。百姓はいつでも容易ではないです。

①スナップエンドウ、②赤い屋根の右の灰色屋根が、畑からみた博物館、③現在の内部、標本整理の様子。



